

創ゼミ 2022 年受験生合格体験記 (原文まま)

○東那々帆 (明和高校) 入塾:高 1 入学時
進学先 早稲田大学 合格校 航空保安大学校、南山大学

私が入塾したのは中学 3 年生の夏です。それまでは闇雲にやっていた勉強も、入塾後は日比野先生や創先生、塩谷先生に教科ごとの知識や問題の解き方はもちろん、勉強を進めること自体のコツもゼロから教えてもらいました。その結果、明和高校に合格することができました。

しかし、高校入学後は部活に打ち込んだこと、受験に対する意識の低さなどから 2 年生の冬までほとんど勉強していませんでした。加えて、コロナの影響で学校の授業も遅れを取るなど勉強のペースが掴みづらい時期が続きました。しかし、そのような状況下でも、創先生が受験に向けて最低限やるべき勉強(ターゲット、英頻、古語単、漢文句形、日本史など)を指示してくださったので、それだけはその時すぐに身につけるようにしていました。3 年生に入ってから夏までは塾で実践を積みつつ、とにかく早く基礎を完成させることを意識した勉強をしていました。夏休みから共通テスト直前は、共通テストの演習が勉強の中心になりました。共通テスト後は、私大や国立の二次対策に移りましたが、徹底した基礎固めや共通テストの演習が土台となってスムーズに勉強を始めることができました。

ここまで私の受験勉強についてお話しましたが、受験期の経験を経て感じたことを 2 点、特に文系の方に向けてお伝え出来ればと思います。

初めに、文系でも数学はしっかりやっておくべきだということです。私はずっと数学が苦手な手で勉強を避けていました。そしていざ受験数学の勉強を始めようとなった時、基礎がないのではぼ手遅れとも言える状態でした。それが原因で、数学は共通テストだけで使って、二次科目からは外す決断をしました。数学を二次で使わない、ということは国立受験の選択肢がぐっと狭まってしまいます。さらに二次試験だけに限らず、周りは二次数学の勉強で実力をつけている人が多いので、共通テストでも不利となります。私は共通テスト数学を、周りとは比にならないほど大きく点数を下げてしまいました。「あの時、もう 10 点取れていたら」と考えてしまうので、そうならないために、いち早く数学の勉強を始めることを強く勧めます。

次に、小論文についてです。小論文の授業が始まったのは今からちょうど 1 年前だと記憶していますが、この科目も受験直前まで苦手な科目の一つでした。それでも、分からないなりに試行錯誤しながら 1 年間書き続けて本当に良かったと思います。特に受験直前は毎日書いていたので、知識のストックや表現力が最も伸びた時期だと感じました。そして、小論文を書くことは国語力を高めることにも繋がります。出題される課題文の内容によっては、倫政や生物などの知識の補填にもなります。そして何より、創先生が添削で改善点や書き方などを詳しく指摘してくださるので、これから何を意識していけばいいのかイメージ

が湧きやすくなります。客観的に採点してくださるので、それは同時に答案にとっても低い点数がついて返ってくることも意味します。私は真面目に書いた小論文で 8 点を取ったことがあります。それでも、最後にギリギリ形になるので、諦めずに書き続けてほしいです。

最後に、私が大学に合格できたのは、創先生や塩谷先生、日比野先生、両親や友達などの周りの環境にとっても恵まれていたからだと思います。この塾で勉強することができて良かったです、本当にありがとうございました。